

年間授業計画 新様式例

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科

国語

科目 論理国語

教科：国語

科目：論理国語

単位数：2 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組～ C 組

教科担当者：

使用教科書：（大修館書店『論理国語』）

教科 国語 の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 論理国語 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代文のさまざまな文章に触れ、言語感覚を磨き、言語と文化の関係を理解する。	文章読解を通して適切かつ効果的に表現する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばす。	身につけた知識や思考力を用いて進んで表現することによって社会生活の充実を図る。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	学	配当 時数
			話・ 聞	書	読					
1 学 期	A 単元 世界・言葉・私 【知識及び技能】 現代文のさまざまな文章に触れ、言語感覚を磨き、言語と文化の関係を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 文章読解を通して適切かつ効果的に表現する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばす。 【学びに向かう力、人間性等】 身につけた知識や思考力を用いて進んで表現することによって社会生活の充実を図る。	・指導事項 話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと ・教材 「対話の精神」 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	【知識及び技能】 現代文のさまざまな文章に触れ、言語感覚を磨き、言語と文化の関係を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 文章読解を通して適切かつ効果的に表現する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばしている。 【学びに向かう力、人間性等】 身につけた知識や思考力を用いて進んで表現することによって社会生活の充実を図ろうとしている。	○	○	○	12
	定期考査					○	○	○	1	
	B 単元 芸術と文化 【知識及び技能】 現代文のさまざまな文章に触れ、言語感覚を磨き、言語と文化の関係を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 文章読解を通して適切かつ効果的に表現する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばす。 【学びに向かう力、人間性等】 身につけた知識や思考力を用いて進んで表現することによって社会生活の充実を図る。	・指導事項 話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと ・教材 「ミロのヴィーナス」 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	【知識及び技能】 現代文のさまざまな文章に触れ、言語感覚を磨き、言語と文化の関係を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 文章読解を通して適切かつ効果的に表現する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばしている。 【学びに向かう力、人間性等】 身につけた知識や思考力を用いて進んで表現することによって社会生活の充実を図ろうとしている。	○	○	○	13
定期考査						○	○	○	1	

2 学 期	C単元 共同体のいま 【知識及び技能】 現代文のさまざまな文章に触れ、言語感覚を磨き、言語と文化の関係を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 文章読解を通して適切かつ効果的に表現する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばす。 【学びに向かう力、人間性等】 身につけた知識や思考力を用いて進んで表現することによって社会生活の充実を図る。	・指導事項 話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと ・教材 「家族化するペット」 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	【知識及び技能】 現代文のさまざまな文章に触れ、言語感覚を磨き、言語と文化の関係を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 文章読解を通して適切かつ効果的に表現する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばしている。 【学びに向かう力、人間性等】 身につけた知識や思考力を用いて進んで表現することによって社会生活の充実を図ろうとしている。	○	○	○	14
							○	○	○	1
	D単元 科学の可能性 【知識及び技能】 現代文のさまざまな文章に触れ、言語感覚を磨き、言語と文化の関係を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 文章読解を通して適切かつ効果的に表現する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばす。 【学びに向かう力、人間性等】 身につけた知識や思考力を用いて進んで表現することによって社会生活の充実を図る。	・指導事項 話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと ・教材 「自己をモデル化する知能」 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	【知識及び技能】 現代文のさまざまな文章に触れ、言語感覚を磨き、言語と文化の関係を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 文章読解を通して適切かつ効果的に表現する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばしている。 【学びに向かう力、人間性等】 身につけた知識や思考力を用いて進んで表現することによって社会生活の充実を図ろうとしている。	○	○	○	17
定期考査						○	○	○	1	
3 学 期	E単元 日本語の多様性 【知識及び技能】 現代文のさまざまな文章に触れ、言語感覚を磨き、言語と文化の関係を理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 文章読解を通して適切かつ効果的に表現する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばす。 【学びに向かう力、人間性等】 身につけた知識や思考力を用いて進んで表現することによって社会生活の充実を図る。	・指導事項 話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと ・教材 「敬語への自覚、他者への自覚」 ・一人1台端末の活用 等	○	○	○	【知識及び技能】 現代文のさまざまな文章に触れ、言語感覚を磨き、言語と文化の関係を理解している。 【思考力、判断力、表現力等】 文章読解を通して適切かつ効果的に表現する能力を育成し、思考力や想像力を伸ばしている。 【学びに向かう力、人間性等】 身につけた知識や思考力を用いて進んで表現することによって社会生活の充実を図ろうとしている。	○	○	○	17
	定期考査						○	○	○	1
計										78

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 地理歴史 科目 地理総合

教科： 地理歴史 科目： 地理総合 単位数： 2 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組 C 組

教科担当者：

使用教科書：（ 高校生の地理総合 帝国書院 ）

教科 地理歴史 の目標：

【知識及び技能】現代世界の地域的特色に関して理解するとともに、諸資料から情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】地理的事象の意義を、多面的・多角的に考察する力や、それらを効果的に説明する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】地理的事象を踏まえて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養う。

科目 地理総合 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
地理に関わる諸事象に関して、世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解しているとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、議論したりしている。	地理に関わる諸事象について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
1 学 期	A 単元 地図や地理情報システムで捉える現代世界 (1)地図や地理情報システムと現代世界 【知識及び技能】 地図や地理情報システムの種類や見方、利用の仕方について、必要な知識を習得する。 【思考力、判断力、表現力等】 地図から各地域が抱える課題を抽出し、洞察する力を養成する。 【学びに向かう力、人間性等】 上記で抽出した課題を自分の問題として自覚化し得る力をつける。	1 部 地図や地理情報システムでとらえる現代世界 1 章 地図や地理情報システムと現代世界 ・ 1 節 地球儀と地図 ・ 2 節 地図と地理情報システム	【知識・技能】 地図について種々の知識を獲得し得たか。 【思考・判断・表現】 地図から各地域の課題を抽出し得たか。 【学びに向かう力、人間性等】 抽出した各地域の課題を自分の問題として考察し得たか。	○	○	○	8
	定期考査			○	○		1
	A 単元 地図や地理情報システムで捉える現代世界 (2)結びつきを深める現代世界 【知識及び技能】 国家間の結びつきの契機と要因について理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 国家間の結びつきのきっかけや原因を多角的に考察し、表現する。 【学びに向かう力、人間性等】 国家間の結びつきの中における日本の位置を自覚化する。	1 部 地図や地理情報システムでとらえる現代世界 2 章 結びつきを深める現代世界 ・ 1 節 現代世界の国家と領域 ・ 2 節 地図からみる国内や国家間の結びつき	【知識・技能】 国家間の結びつきについてきちんと知識が定着したか。 【思考・判断・表現】 国家間の結びつきについて多角的に考えられたか。 【学びに向かう力、人間性等】 国家間の結びつきの中における日本の位置について自分の問題として自覚化できたか。	○	○	○	11
2 学 期	B 単元 国際理解と国際協力 (1)生活文化の多様性と国際理解 【知識及び技能】 世界の地形・気候と人々の生活について知識を得る。 【思考力、判断力、表現力等】 地形と気候がいかに人々の生活を規定するのかを理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 地形と気候がもたらす事柄を自分のこととして認識する。	2 部 国際理解と国際協力 1 章 生活文化の多様性と国際理解 ・ 1 節 世界の地形と人々の生活 ・ 2 節 世界の気候と人々の生活  ・ 東南アジア ・ 中央アジア、西アジア、北アフリカ ・ ロシア	【知識・技能】 世界の地形・気候と人々の生活についての知識を獲得できたか。 【思考・判断・表現】 世界の地形・気候と人々の生活の連関性を理解し得たか。 【学びに向かう力、人間性等】 世界の地形・気候が人々の生活にもたらす影響を知り、自分をとりまく環境に思いをめぐらすことができたか。	○	○	○	6
	定期考査			○	○		1
	B 単元 国際理解と国際協力 (1)生活文化の多様性と国際理解 【知識及び技能】 世界の産業・宗教・民族・言語と人々の生活の知識を得る。 【思考力、判断力、表現力等】 世界の産業・宗教・民族・言語がいかに人々の生活を規定するのかを理解する。 【学びに向かう力、人間性等】 世界の産業・宗教・民族・言語と人々の生活の関係性を知り、自分をとりまく世界に思いを致す。	2 部 国際理解と国際協力 1 章 生活文化の多様性と国際理解 ・ 2 節 世界の産業と人々の生活 ・ 3 節 世界の言語・宗教、歴史的背景と人々の生活  ・ 東アジア ・ インド ・ サハラ以南アフリカ ・ ヨーロッパ ・ アメリカ合衆国 ・ ラテンアメリカ ・ オセアニア	【知識・技能】 世界の産業・宗教・民族・言語と人々の生活の知識を獲得できたか。 【思考・判断・表現】 世界の産業・宗教・民族・言語と人々の生活の連関性を理解し得たか。 【学びに向かう力、人間性等】 世界の産業・宗教・民族・言語と人々の生活についての学びを、自分をとりまく世界に自覚化できたか。	○	○	○	10
B 単元 国際理解と国際協力 (2)地球的課題と国際協力 【知識及び技能】 地球的課題について、人口問題・食料問題・都市問題等の諸問題の知識を得る。 【思考力、判断力、表現力等】 人口問題・食料問題・都市問題等がどのように問題化するのかを考察する力をつける。 【学びに向かう力、人間性等】 人口問題・食料問題・都市問題等を自分をとりまく問題として自覚化する。	2 部 国際理解と国際協力 2 章 地球的課題と国際協力 ・ 1 節 人口問題 ・ 2 節 食料問題 ・ 3 節 都市・居住問題	【知識・技能】 人口問題・食料問題・都市問題等の諸問題がいかに地球的課題になっているかについて知識を獲得し得たか。 【思考・判断・表現】 人口問題・食料問題・都市問題等の要因・現状・未来展望について考察し得たか。 【学びに向かう力、人間性等】 人口問題・食料問題・都市問題等の解決策について自分の問題として自覚化し得たか。	○	○	○	8	



高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 数学 科目 数学A

教科： 数学 科目： 数学A 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 A 組～ C 組

教科担当者：

使用教科書：（改訂版 新 高校の数学A（数研出版））

教科 数学 の目標：

- 【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 数学A の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見だし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見だし、数理的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	学	配当 時数	
1 学期	第1章 場合の数と確率 第1節 場合の数 場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	1. 集合	【知識・技能】 ○共通部分、和集合、空集合、全体集合、補集合など集合に関する用語を理解し、それらを求めることができる。 【思考・判断・表現】 ○条件を満たすものを集合の要素として考え、表すことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ○集合の考えについて興味をもち、いろいろな集合を表そうとする。	○	○	○	2	
		2. 集合の要素の個数	【知識・技能】 ○集合の要素の個数を、数え上げることで求めることができる。 ○補集合や和集合の要素の個数の公式を理解し、それらを用いて要素の個数を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ○ものを数え上げるのに集合を利用して考察することができる。 ○ベン図を利用して集合を図示することで、補集合や和集合の要素の個数を考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ○ベン図や公式を利用することで、集合の要素の個数を数学的に数えようとする。	○	○	○	3	
		3. 和の法則と積の法則	【知識・技能】 ○樹形図を用いたり順序だてて並べたりすることで、場合の数をきれいに重複なく数えることができる。 ○和の法則や積の法則の利用場面を理解し、事象に応じて使い分けて場合の数を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ○和の法則を、表を利用することで、また積の法則を、樹形図の特別な場合として考察することで見いだすことができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ○場合の数を求めるのに、効率的に考えることができる法則（和の法則・積の法則）があることに興味をもち、使いこなそうとしている。	○	○	○	4	
		定期考査			○	○	○	1
			4. 順列	【知識・技能】 ○順列の意味を理解し、公式を利用することができる。 ○簡単な場合の数を、順列の考えを利用して求めることができる。 ○すべてを取った順列の総数から得られる階乗とその記号を理解し、これを活用できる。 ○様々な場合の数を、順列、円順列、重複順列に帰着させて求めることができる。 【思考・判断・表現】 ○となりあう場合の順列のような、特殊な条件が付く順列を、見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。 ○既知の順列や積の法則をもとにして、円順列、重複順列を考察することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ○様々な場合の数を求めるのに、順列の考え方が使えることに興味・関心をもつ。 ○順列、円順列、重複順列の違いを見い出そうとしている。	○	○	○	6

	5. 組合せ	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○組合せの意味を理解し、公式を利用することができる。</li> <li>○簡単な場合の数を、組合せの考えを利用して求めることができる。</li> <li>○組合せの性質を理解し、公式を利用することができる。</li> <li>○様々な場合の数を、組合せの考えを利用して求めることができる。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○組合せの総数と順列の総数の関係を理解し、順列の総数をもとにして、組合せの総数を考察することができる。</li> <li>○特殊な条件が付く組合せを、見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○順列と組合せの違いや、様々な場合の数を求めるのに、組合せの考え方が使えることに興味・関心をもつ。</li> <li>○組合せの考え方を利用して、図形の個数や遠回りをしない道順などの具体的な事象の場合の数を求めようとする。</li> </ul>	○	○	○	6
第2節 確率 確率の意味と確率を求めるときの基本的な法則や考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	1. 事象と確率	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○試行の結果としての事象を集合として表すことができる。</li> <li>○確率の定義を理解し、簡単な確率を求めることができる。</li> <li>○確率の性質を理解している。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○試行の結果を事象としてとらえ、事象を集合と結びつけて考察することができる。</li> <li>○ものごとの起こりやすさを、同様に確からしいという概念をもとに数量的に考察することができる。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○さいころを何回も投げる実験において、ある目が出る割合が一定の値に近づくことに興味をもち、その値の求め方を考えようとする。</li> <li>○ものごとの起こりやすさを、数値を使って計算で求めようとする。</li> </ul>	○	○	○	4
定期考査			○	○	○	1
2 学 期	2. 確率の計算	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○表や組合せの考えを活用して、確率を求めることができる。</li> <li>○排反事象の意味を理解し、確率を求めることができる。</li> <li>○余事象の意味を理解し、確率を求めることができる。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○排反事象や余事象の確率などを利用して、複雑な事象の確率を考察することができる。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○これまでに学んだ確率の性質を利用して、いろいろな場合の確率を意欲的に求めようとする。</li> </ul>	○	○	○	6
	3. 独立な試行と確率	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○試行が独立か、独立でないかを判断することができる。</li> <li>○独立な試行の確率を、公式を用いて求めることができる。</li> <li>○反復試行の確率を、公式を用いて求めることができる。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○独立な試行の確率を、具体的な例から直観的に考えることができる。</li> <li>○反復試行の意味を理解し、確率の求め方を組合せの考えと関連付けて考察することができる。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○独立な試行の確率や反復試行の確率について、興味をもって求めようとする。</li> </ul>	○	○	○	4
	4. 条件つき確率	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○条件つき確率の定義を理解し、確率を求めることができる。</li> <li>○確率の乗法定理を理解し、確率を求めることができる。</li> </ul> <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○確率の乗法定理を利用することで、くじを引くときの順番には当たる確率は関係がないことを理解し、説明することができる。</li> </ul> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○条件つき確率や確率の乗法定理の考えに興味・関心をもち、活用しようとする。</li> <li>○確率の乗法定理を活用して、「くじを引く順番と確率」といった身近な確率の問題解決に積極的に取り組もうとする。</li> </ul>	○	○	○	4

	5. 期待値	<p>【知識・技能】</p> <p>○期待値について理解し、いろいろな場合の期待値を求めることができる。</p> <p>○損得判断をするときに、期待値を判断材料の1つとして利用することができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○期待値を、確率の考えに基づいて考察することができる。</p> <p>○損得を考える際に、期待値をどのように活用すればよいかを判断し、説明することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>○賞金や得点などの期待を、客観的な数値で表すことに興味をもち、期待値を求め、考察しようとする。</p>	○	○	○	3
定期考査			○	○	○	1
第2章 図形の性質 第1節 平面図形 平面図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。	1. 図形の基本	<p>【知識・技能】</p> <p>○図形の基本性質を理解し、それらを用いて角の大きさや辺の長さを求めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○角の大きさや辺の長さを求めるのに、図形のどの基本性質を使えばよいかを判断できる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>○図形の基本性質について既に学んだ事項を思い出し、それらを活用できる場面を見いだそうとしている。</p>	○	○	○	2
	2. 角の二等分線と線分の比	<p>【知識・技能】</p> <p>○角の二等分線と線分の比の定理を理解し、それらを用いて辺や線分の長さを求めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○角の二等分線と線分の比の定理を証明するのに、既習事項を用いて、論理的に考察することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>○外角の二等分線についても内角の場合と同様の定理が成り立つことに興味をもつ。</p>	○	○	○	2
	3. 三角形の外心・内心・重心	<p>【知識・技能】</p> <p>○三角形の外心・内心・重心の定義とその性質を理解し、それらを用いて角の大きさや線分の長さを求めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○三角形の外心・内心・重心の性質を証明するのに、既習事項を用いて、論理的に考察することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>○三角形の外心・内心・重心に関する性質に興味をもち、考察しようとする。</p>	○	○	○	4
	4. 円周角の定理	<p>【知識・技能】</p> <p>○弧、弦、円周角、中心角など円に関する用語を理解している。</p> <p>○円周角の定理を理解し、角の大きさを求めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○円周角の定理の逆を理解し、等しい角に着目して考察することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>○中学校で学んだ円周角の定理とその逆を思い出し、それらを活用しようとしている。</p>	○	○	○	2
	5. 円に内接する四角形	<p>【知識・技能】</p> <p>○円に内接する四角形の性質を理解し、角の大きさを求めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○円に内接する四角形の性質やその逆を証明するのに、既習事項を用いて、論理的に考察することができる。</p> <p>○四角形が円に内接する条件について、対角に着目して考察することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>○四角形が円に内接する条件に興味をもち、考察しようとする。</p>	○	○	○	2
	6. 円の接線	<p>【知識・技能】</p> <p>○接線と弦のつくる角の性質を理解し、角の大きさを求めることができる。</p> <p>○円の接線の長さが等しいことを理解し、辺や線分の長さを求めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>○円と直線を動的にとらえて、それらの位置関係を考察することができる。</p> <p>○接線と弦のつくる角の性質を証明する際に、場合分けをしながら考察することができる。</p> <p>○円の接線の長さが等しいことを証明するのに、既習事項を用いて、論理的に考察することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>○円の接線にはいろいろな性質があることを知り、それぞれの性質と活用法について興味をもつ。</p>	○	○	○	2
定期考査			○	○	○	1

3 学 期		7. 方べきの定理	<p>【知識・技能】 ○方べきの定理を理解し、線分の長さを求めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 ○方べきの定理を証明するのに、既習事項を用いて、論理的に考察することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ○相似を利用した方べきの定理の導き方に興味をもつ。</p>	○	○	○	3
		8. 2つの円	<p>【知識・技能】 ○2つの円の位置関係には5つのパターンがあることを理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 ○5つの円の位置関係を、動的な視点によって観察・分類することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ○2つの円の位置関係について、中心間の距離と半径の関係を積極的に考察しようとする。</p>	○	○	○	2
		9. 作図	<p>【知識・技能】 ○中学校で学んだ基本的な作図を行うことができる。</p> <p>○円の接線を、基本的な作図の組み合わせによって描くことができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 ○さまざまな図形を、基本的な作図の組合せによって描くことができることを説明することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ○コンパスと定規を使って作図に積極的に取り組もうとする。</p> <p>○作図に対して、なぜそれが正しいか考え、説明しようとする態度がある。</p>	○	○	○	5
	第2節 空間図形 空間図形の性質についての理解を深め、それらを観察したり考察したりすることで、空間認識力の育成を図る。	1. 空間の直線, 平面	<p>【知識・技能】 ○2直線の関係、直線と平面の関係、2平面の関係には3種類ないしは2種類あることを理解し、それらの位置関係を示すことができる。</p> <p>○2直線のなす角、直線と平面の垂直条件、2平面の位置関係について理解し、角の大きさやそれらの関係性を求めることができる。</p> <p>【思考・判断・表現】 ○直線と平面が垂直になるための条件を、本を立てたときの状態に当てはめるなど具体的な事例によって考察することができる。</p> <p>○直線や平面が平行または垂直となるかどうかを、立方体を例として考察することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ○直線や平面の位置関係にはさまざまな状態があることに興味をもち、それらの性質を理解しようとする。</p>	○	○	○	3
		2. 正多面体	<p>【知識・技能】 ○多面体や正多面体の定義を理解し、それらの頂点、辺、面の数を求めることができる。</p> <p>○正多面体の特徴を理解し、正多面体が5種類のみであることを知っている。</p> <p>【思考・判断・表現】 ○多面体の頂点、辺、面の数に関して成り立つ性質を具体的な例によって確認し、説明することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ○多面体に関して成り立つ性質について興味をもち、その性質を確認しようとしている。</p>	○	○	○	3
		3. 立体の切断	<p>【知識・技能】 ○立体を平面で切り取ったときの切り口の形や切り取られてできる立体について、どのような形状になるかを理解している。</p> <p>【思考・判断・表現】 ○立体の切り取り方によって切り口の形が異なることや、そのときの切り口の特徴について説明することができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 ○立体の切り口の形がどのようなのかについて興味をもち、その特徴を見つけ出そうとしている。</p>	○	○	○	1
	定期考査			○	○	○	1
							合計
							78

高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 理科 科目 生物基礎

教科：理科 科目：生物基礎

単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 A組～C組

教科担当者：

使用教科書：（ /版生物基礎 改訂版 【啓林館】 ）

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】 自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。

科目 生物基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。	生物や生物現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	学	配当 時数
1 学期	現存する多様な生物には共通性があり、その共通性は共通の起源をもつことに由来することがわかる。細胞が基本単位であることがわかる。	第1部生物の特徴 ・生物の多様性と共通性 ・生物の進化と系統 ・真核細胞の構造 ・原核細胞の構造	【知識・技能】生物群の系統樹上での類縁関係がわかる。多様な生物の共通点がわかる。細胞小器官の名称と働きを理解し、原核生物と真核生物の共通点と相違点が見える。 （提出課題、定期考査） 【思考・判断・表現】生物としての共通の特徴をあげることができ、多様な生物群が単一の共通先祖に由来すると考えることができる。細胞小器官の名称と働きを理解し、原核生物と真核生物の共通点と相違点を考えることができる。 （提出課題、定期考査） 【学びに向かう力、人間性等】多様な生物に関心を持ち、形態や生活の多様さを知らうとする意欲を持っている。細胞小器官の特徴と働きに注目する。 （行動観察、提出課題）	○	○	○	12
	定期考査			○	○	○	1
	生命活動に必要なエネルギーとATPについてわかる。光合成によって光エネルギーを用いて有機物がつくられ、呼吸によって有機物からエネルギーが取り出されることがわかる。	第1部生物の特徴 ・生命活動とエネルギー ・ATPの構造 ・生体内の化学反応と酵素 ・光合成と呼吸	【知識・技能】ATPが果たす役割について理解する。酵素反応の特徴を理解できる。光合成の場である葉緑体と呼吸の場であるミトコンドリアを理解する。 （提出課題、定期考査） 【思考・判断・表現】代謝におけるエネルギーについて考えることができる。酵素の働きについて考えることができる。細胞内での光合成の場と呼吸の場を葉緑体やミトコンドリアと関連させることができる。 （提出課題、定期考査） 【学びに向かう力、人間性等】生命活動に必要なエネルギーと代謝について調べようとする。ATPとエネルギーの移動、酵素の役割について関心を持つ。光合成と呼吸の反応とエネルギーの転換を関連させて考えることができる。 （行動観察、提出課題）	○	○	○	13
定期考査				○	○	○	1
2 学期	DNAが塩基の相補性に依存して二重らせん構造をもち、塩基の配列が遺伝情報となることわかる。体細胞分裂では、分裂前に母細胞のDNAと同じ塩基配列のDNAが作られることがわかる。転写と翻訳における塩基配列からアミノ酸配列への情報の流れがわかる。また、タンパク質が酵素として働くことで、生命現象を支えていることがわかる。	第2部遺伝子とその働き ・DNAの構造と遺伝情報 ・DNA複製 ・転写と翻訳	【知識・技能】DNAの二重らせん構造と塩基の相補性の重要性が理解できる。転写と翻訳の過程を理解し、遺伝情報が転写されたmRNAの役割を理解することができる。タンパク質が生命現象と関連して多様な働きをしていると考えることができる。 （提出課題、定期考査） 【思考・判断・表現】DNAの二重らせん構造における塩基配列が遺伝情報となると考えることができる。母細胞のDNAの複製は塩基配列の相補的な複製であることが表現できる。遺伝情報である塩基配列が、アミノ酸配列に翻訳されると考えることができる。 （提出課題、定期考査） 【学びに向かう力、人間性等】遺伝子が親から子へと伝えられる因子であることと、DNAの特徴について関心を持ち考えようとする。RNAとタンパク質の構造、および転写と翻訳のしくみに関心を持つ。ゲノム医療など最新の医学的話題にも関心を持つ。 （行動観察、提出課題）	○	○	○	15
	定期考査			○	○	○	1
	病原菌などの異物を認識、排除して体内環境を守るしくみがわかる。非特異的な自然免疫の反応がわかる。体液性免疫と細胞性免疫のそれぞれのしくみがわかる。免疫が実際の病気とどのように関わっているのかわかる。	第3部ヒトの体の調節 ・生体防御の概要 ・自然免疫のしくみ ・獲得免疫のしくみ ・免疫と病気	【知識・技能】生体防御には異物に対する防御と自然免疫、獲得免疫があることを理解する。生体に異物が侵入してから起こる経過を体液性免疫と細胞性免疫にわけて理解する。予防接種、ワクチンと免疫の関係がわかる。 （提出課題、定期考査） 【思考・判断・表現】自然免疫を獲得免疫と対比させて考えることができる。体液性免疫と細胞性免疫を説明できる。アレルギーなどの免疫反応を例をあげて説明できる。 （提出課題、定期考査） 【学びに向かう力、人間性等】免疫のしくみに関心を持つ。予防接種や感染症との関連も含めて、免疫に関する話題に興味を持つ。 （行動観察、提出課題）	○	○	○	16
定期考査				○	○	○	1
3 学期	多様な植生が成立する要因には植物の環境への適応が関わっていることがわかる。陸上の植生が移り変わっていくこととその要因がわかる。気温と降水量の違いによって、地球上ではさまざまなバイオームが成立していることがわかる。生態系の成り立ちとバランスについて理解する。	第4部生物の多様性と生態系 ・環境と生物 ・遷移の過程 ・遷移と世界のバイオーム ・生態系における生物の役割 ・種の多様性と食物連鎖 ・生態系と生態ピラミッド ・生態系のバランスと変動	【知識・技能】土壌にすむ動物を観察することができる。生態系を食物連鎖の関係で把握することができ、それぞれの量的関係を理解できる。 （提出課題、定期考査） 【思考・判断・表現】生態系の成り立ちと構成要素について具体的な生物をあげて考えることができる。生態系のバランスについて考えることができる。外来生物の影響について考えることができる。 （提出課題、定期考査） 【学びに向かう力、人間性等】生態系をどのように把握できるか関心を持っている。生態系に与える人間生活の影響について関心をもっている。 （行動観察、提出課題）	○	○	○	17
	定期考査			○	○	○	1
							合計
							78

年間授業計画 新様式例

足立 高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 保健体育 科目 体育

教科：保健体育 科目：体育 単位数：2 単位

対象学年組：第 3 学年 A 組・C 組

教科担当者：

使用教科書：（大修館 現代高等保健体育）

教科 保健体育 の目標：

- 【知識及び技能】 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身につけるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。

科目 体育 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身につけるようにする。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態			配当 時数
1・3 学期	A 体づくり運動(体ほぐしの運動) 【知識および技能】 体ほぐしの運動では、手軽な運動を行い、心と体との関係や心身の状況に気づき、仲間と積極的に関わり合うことができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 体づくり運動に積極的に取り組むとともに、仲間の学習を援助しようとする、一人ひとりの違いに応じた動きなどを認めようとする、話し合いに参加しようとするなどや、健康・安全に気を配ることができるようにする。	①のびのびとした動作で用具などを用いた運動を行うことを通して、気づいたり関わり合ったりすること。②大きくリズムカルに全身や体の各部位を振ったり、回したり、ねじったり、曲げ伸ばしたりすること。③いろいろなフォームで様々な用具を用いて、タイミングよく跳んだり、転がしたりすること。④自己の体重を利用して腕や脚を屈伸したり、腕や脚を上げたり下ろしたり、同じ姿勢を維持したりすること。	【知識・技能】 ①体づくり運動のうち、心と体をほぐし、体を動かす楽しさや心地よさを味わう意義があることについて、理解したことを言ったり、書き出したりしている。②体づくり運動のうち、体の柔らかさ、巧みな動き、力強い動き、動きを持続する能力を高める意義があることについて、理解したことを言ったり、書き出したりしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ①体ほぐしの運動で「心と体の関係や心身の状態に気づく」、「仲間と積極的に関わり合う」ことを踏まえてねらいに応じた運動を選んでいる。②学習した安全上の留意点を、他の学習場面に当てはめ、仲間に伝えている。 【学びに向かう力、人間性等】 ①体づくり運動の学習に積極的に取り組もうとしている。②仲間の補助をしたり助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。	○	○	○	7
1 学期	C 陸上競技(短距離走、長距離走) 【知識および技能】 クラウチングスタートから徐々に上体を起こしていき加速することができるようにする。ペースを守り、一定の距離を走ることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 掲示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝えることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 陸上競技の学習に積極的に取り組むことができるようにする。	①クラウチングスタートから徐々に上体を起こしていき加速すること。②ペースを守り、一定の距離を走ること。	【知識・技能】 ①クラウチングスタートから徐々に上体を起こしていき加速することができる。②腕に余分な力を入れず、リラックスして走ることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ①掲示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に、仲間の課題や出来映えを伝える。 【学びに向かう力、人間性等】 ①陸上競技の学習に積極的に取り組もうとしている。	○	○	○	3
1・3 学期	H 体育理論 【知識および技能】 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 運動やスポーツの学習の仕方についての学習に主体的に取り組むことができるようにする。	①体力の構成要素と技能との関係を理解すること。②トレーニングの原理・原則を理解すること。③スポーツ外傷とスポーツ障害について整理すること。④気温や天候、湿度等の環境条件に潜む危険を理解すること。⑤技術と技能の違いについて理解すること。	【知識・技能】 ①運動やスポーツの技能と体力は、相互に関連していること、また、期待する成果に応じた技能や体力の高め方があること、さらに、過度な負荷や長期的な酷使は、けがや疾病の原因となる可能性があることについて、言ったり、書きだしたりしている。 【思考力、判断力、表現力等】 ①運動やスポーツの効果的な学習の仕方について、概念と自己の状況を関連付けたりして、自己や社会についての課題を発見している。②運動やスポーツの活動時の健康・安全の確保の仕方について、習得した知識を基に、環境の異なる場所や変化を想定して、危険を予見し回避するための自己の提案を言葉や文章などを通して他者に伝えている。 【学びに向かう力、人間性等】 ①運動やスポーツの効果的な学習の仕方についての学習に、主体的に取り組もうとしている。	○	○	○	6

1 学期・2 学期・3 学期	E 球技(ゴール型・バスケットボール) 【知識及び技能】 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技術で仲間と連携し、ゲームを展開することができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 安定したボール操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	①ゴールの枠内にシュートをコントロールすること。②味方が操作しやすいパスを送ること。③守備者とボールの間に自分の体を入れてボールをキープすること。④ゴール前に広い空間を作り出すために、守備者を引きつけてゴールから離れること。⑤パスを出した後には次のパスを受ける動きをすること。⑥ボール保持者が進行できる空間を作り出すために、進行方向から離れること。⑦ゴールとボール保持者を結んだ直線上で守ること。⑧ゴール前の空いている場所をカバーすること。	【知識・技能】 ①バスケットボールの技術や戦術、作戦の名称とそれらを身につけるためのポイントを理解することができた。②ゲームのルール、試合方法や審判や運営の仕方など、競技会の行い方を理解することができた。③安定したボール操作や状況に応じたボール操作、チームメイトと連携して空間を作り出す動きや空間を埋める動きなどをゲームで行うことができた。 【思考・判断・表現】 ①自分やチームの課題を見つけ、これまで学んだ知識や技能を活用して、課題解決に有効な練習方法を選択したり、課題を解決するための練習計画を立てることができた。②練習やゲーム時に、よりよいマナーやプレイができ、健康や安全を確保する活動ができるように、自分やチームの活動を振り返るとともに仲間に提案することができた。③チームで作戦や戦術を選ぶ際に、仲間と話し合い、自分の考えを仲間に伝えることで皆が納得することができた。④体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに楽しむための練習やゲームの行い方を工夫することができた。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①分担した役割に主体的に取り組む、練習やゲーム、チームの話し合いに積極的に参加することができた。②競技の特性に応じた危険を理解したうえで、安全に留意して実施するとともに、フェアなプレイを大切にゲームをすることができた。③一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認め、仲間を称えるとともに、仲間へ助言することで信頼関係を	○	○	○	8
				○	○	○	2
1 学期・2 学期・3 学期	E 球技(ネット型・バドミントン) 【知識及び技能】 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技術で仲間と連携し、ゲームを展開することができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 役割に応じたシャトル操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	①サーブでは、シャトルをねらった場所に打つこと。②シャトルを相手側のコートの空いた場所やねらった場所に打ち返すこと。③腕やラケットを強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むこと。④ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすること。⑤連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動くこと。	【知識・技能】 ①バドミントンの技術や戦術、作戦の名称とそれらを身につけるためのポイントを理解することができた。②ゲームのルール、試合方法や審判や運営の仕方など、競技会の行い方を理解することができた。③役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防がゲームで行うことができた。 【思考・判断・表現】 ①自分やチームの課題を見つけ、これまで学んだ知識や技能を活用して、課題解決に有効な練習方法を選択したり、課題を解決するための練習計画を立てることができた。②練習やゲーム時に、よりよいマナーやプレイができ、健康や安全を確保する活動ができるように、自分やチームの活動を振り返るとともに仲間に提案することができた。③チームで作戦や戦術を選ぶ際に、仲間と話し合い、自分の考えを仲間に伝えることで皆が納得することができた。④体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに楽しむための練習やゲームの行い方を工夫することができた。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①分担した役割に主体的に取り組む、練習やゲーム、チームの話し合いに積極的に参加することができた。②競技の特性に応じた危険を理解したうえで、安全に留意して実施するとともに、フェアなプレイを大切にゲームをすることができた。③一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認め、仲間を称えるとともに、仲間へ助言することで信頼関係を深め、互いに高め合うことができた。	○	○	○	8
		実技テスト		○	○	○	2
1 学期・2 学期・3 学期	E 球技(ネット型・卓球) 【知識及び技能】 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技術で仲間と連携し、ゲームを展開することができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	①サーブでは、ボールをねらった場所に打つこと。②ボールを相手側のコートの空いた場所やねらった場所に打ち返すこと。③腕やラケットを強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むこと。④ラリーの中で、見方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすること。⑤連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動くこと。	【知識・技能】 ①卓球の技術や戦術、作戦の名称とそれらを身につけるためのポイントを理解することができた。②ゲームのルール、試合方法や審判や運営の仕方など、競技会のおこない方を理解することができた。③役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防がゲームで行うことができた。 【思考・判断・表現】 ①自分やチームの課題を見つけ、これまで学んだ知識や技能を活用して、課題解決に有効な練習方法を選択したり、課題を解決するための練習計画を立てたりすることができた。②練習やゲーム時に、よりよいマナーやプレイができ、健康や安全を確保する活動ができるように、自分やチームの活動を振り返るとともに仲間に提案することができた。③チームで作戦や戦術を選ぶ際に、仲間と話し合い、自分の考えを仲間に伝えることで皆が納得することができた。④体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに楽しむための練習やゲームの行い方を工夫することができた。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①分担した役割に主体的に取り組む、練習やゲーム、チームの話し合いに積極的に参加することができた。②競技の特性に応じた危険を理解したうえで、安全に留意して実施するとともに、フェアなプレイを大切にゲームをすることができた。③一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認め、仲間を称えるとともに、仲間へ助言することで信頼関係を深め、互いに高め合うことができた。	○	○	○	8
		実技テスト		○	○	○	2

1 学期・2 学期・3 学期	E 球技(ネット型・バレーボール) 【知識及び技能】 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技術で仲間と連携し、ゲームを展開することができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	①サーブでは、ボールをねらった場所に打つこと。②腕を強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むこと。③ラリーの中で、見方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすること。④連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動くこと。	【知識・技能】 ①バレーボールの技術や戦術、作戦の名称とそれらを身につけるためのポイントを理解することができた。②ゲームのルール、試合方法や審判や運営の仕方など、競技会のおこない方を理解することができた。③役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防がゲームで行うことができた。 【思考・判断・表現】 ①自分やチームの課題を見つけ、これまで学んだ知識や技能を活用して、課題解決に有効な練習方法を選択したり、課題を解決するための練習計画を立てることができた。②練習やゲーム時に、よりよいマナーやプレイができ、健康や安全を確保する活動ができるように、自分やチームの活動を振り返るとともに仲間に提案することができた。③チームで作戦や戦術を選ぶ際に、仲間と話し合い、自分の考えを仲間に伝えることで皆が納得することができた。④体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに楽しむための練習やゲームの行い方を工夫することができた。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①分担した役割に主体的に取り組む、練習やゲーム、チームの話し合いに積極的に参加することができた。②競技の特性に応じた危険を理解したうえで、安全に留意して実施するとともに、フェアなプレイを大切にゲームをすることができた。③一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認め、仲間を称えるとともに、仲間へ助言することで信頼関係を深め、互いに高め合うことができた。	○	○	○	8
	実技テスト			○	○	○	2
1 学期・2 学期・3 学期	E 球技(ゴール型・アルティメット) 【知識及び技能】 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技術で仲間と連携し、ゲームを展開することができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 安定したディスク操作と空間を作り出すなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	①エンドゾーン内にパスをコントロールすること。②味方が操作しやすいパスを送ること。③守備者とディスクの間に自分の体を入れてボールをキープすること。④ゴール前に広い空間を作り出すために、守備者を引きつけてゴールから離れること。⑤パスを出した後に次のパスを受ける動きをすること。⑥ゴールとディスク保持者を結んだ直線上で守ること。	【知識・技能】 ①アルティメットの技術や戦術、作戦の名称とそれらを身につけるためのポイントを理解することができた。②ゲームのルール、試合方法や審判や運営の仕方など、競技会の行い方を理解することができた。③安定したディスク操作やエンドゾーン前での攻防を展開するためのディスク操作と空間に走りこむなどの動きをゲームで行うことができた。 【思考・判断・表現】 ①自分やチームの課題を見つけ、これまで学んだ知識や技能を活用して、課題解決に有効な練習方法を選択したり、課題を解決するための練習計画を立てることができた。②練習やゲーム時に、よりよいマナーやプレイができ、健康や安全を確保する活動ができるように、自分やチームの活動を振り返るとともに仲間に提案することができた。③チームで作戦や戦術を選ぶ際に、仲間と話し合い、自分の考えを仲間に伝えることで皆が納得することができた。④体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに楽しむための練習やゲームの行い方を工夫することができた。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①分担した役割に主体的に取り組む、練習やゲーム、チームの話し合いに積極的に参加することができた。②競技の特性に応じた危険を理解したうえで、安全に留意して実施するとともに、フェアなプレイを大切にゲームをすることができた。③一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認め、仲間を称えるとともに、仲間へ助言することで信頼関係を深め、互いに高め合うことができた。	○	○	○	9
	実技テスト			○	○	○	2
1 学期・2 学期・3 学期	E 球技(ネット型・テニス) 【知識及び技能】 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技術で仲間と連携し、ゲームを展開することができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができるようにする。	①サーブでは、ボールをねらった場所に打つこと。②ボールを相手側のコートに打ち返すこと。③腕やラケットを強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むこと。④ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をカバーすること。⑤連携プレイのための基本的なフォーメーションに応じた位置に動くこと。	【知識・技能】 ①テニスの技術や戦術、作戦の名称とそれらを身につけるためのポイントを理解することができた。②ゲームのルール、試合方法や審判や運営の仕方など、競技会のおこない方を理解することができた。③役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防がゲームで行うことができた。 【思考・判断・表現】 ①自分やチームの課題を見つけ、これまで学んだ知識や技能を活用して、課題解決に有効な練習方法を選択したり、課題を解決するための練習計画を立てることができた。②練習やゲーム時に、よりよいマナーやプレイができ、健康や安全を確保する活動ができるように、自分やチームの活動を振り返るとともに仲間に提案することができた。③チームで作戦や戦術を選ぶ際に、仲間と話し合い、自分の考えを仲間に伝えることで皆が納得することができた。④体力や技能の程度、性別等の違いに配慮して、仲間とともに楽しむための練習やゲームの行い方を工夫することができた。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①分担した役割に主体的に取り組む、練習やゲーム、チームの話し合いに積極的に参加することができた。②競技の特性に応じた危険を理解したうえで、安全に留意して実施するとともに、フェアなプレイを大切にゲームをすることができた。③一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認め、仲間を称えるとともに、仲間へ助言することで信頼関係を深め、互いに高め合うことができた。	○	○	○	9
	実技テスト			○	○	○	2
							合計
							78



足立高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 商業 科目 簿記

教科：商業 科目：簿記 単位数：3 単位

対象学年組：第3学年C組

教科担当者：

使用教科書：（実教出版 新簿記）

教科 商業 の目標：

【知識及び技能】 商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 簿記 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
簿記について実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	取引の記録と財務諸表の作成方法の妥当性と課題を見だし、ビジネスに携わるものとして科学的な根拠に基づいて創造的に課題に対する力を養う。	企業会計に関する法規と基準を適切に適用する力の向上を目指して自ら学び、適正な取引の記録と財務諸表の作成に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	学	配当 時数
1 学期	第5編 取引の記帳(その2) ・手形の種類を明らかにする。 ・約束手形のしくみと記帳法を理解させ、各種取引の記帳法について習熟させる。 ・手形記入帳の役割と記帳法を理解させる。 ・手形の裏書譲渡・割引・書き換え・不渡りの意味を明らかにし、その記帳法を理解させる。 ・有価証券の意味と計算のしかた、買い入れたとき、売却したときの記帳法を理解させる。 ・個人企業における資本の元入れ、引き出しなどの記帳法を理解させる。	・指導事項 1. 特殊な手形の取引 2. 有価証券の取引 3. 最近の実務に広がる取引  ・教材 プリント 端末で学んだこと的具体例を調べる。	【知識・技能】 様々な取引の記帳について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができた。 【思考・判断・表現】 取引を記録することと、取引の意義を考えながら取り組むことができた。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な取引の記帳について自ら学び、取引の記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組むことができた。	○	○	○	17
	定期考査			○	○	○	1
	第5・6編 取引の記帳(その2)、決算整理(その2) ・支店会計の独立の意味を理解させる。 ・支店会計が独立している場合の本支店間の取引、支店相互間の取引の記帳法を理解させる。 ・本支店合併の損益計算書・貸借対照表の作り方を理解させ、その作成に習熟させる。 ・費用・収益の繰り延べ・見越しの意味とそれぞれの記帳法を理解させ、習熟をはかる。 ・減価償却の間接法、有価証券の評価替えなどの記帳法を理解・習熟させる。	・指導事項 1. 本支店会計 2. 費用・収益の繰り延べと見越し 3. 有価証券の評価  ・教材 プリント 端末で学んだこと的具体例を調べる。	【知識・技能】 様々な取引の記帳や決算整理について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができた。 【思考・判断・表現】 取引を記録することと、取引の意義を考えながら取り組むことができた。 【学びに向かう力、人間性等】 様々な取引の記帳や決算整理について自ら学び、取引の記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組むことができた。	○	○	○	20
定期考査			○	○	○	1	
2 学期	第6・発展編 決算整理(その2)、株式会社の取引 ・切手・はがきなどの未使用分の意味とそれぞれの記帳法を理解させ、習熟をはかる。 ・費用・収益の繰り延べ・見越し、間接法、有価証券の評価などを含めた財務諸表の作成について習熟させる。 ・株式会社の設立と株式の発行時の記帳法を理解させる。	・指導事項 1. 郵便切手などの未使用分 2. 損益計算書と貸借対照表の作成 3. 株式会社とは 4. 株式会社の設立 5. 株式の発行 6. 純利益の計上  ・教材 プリント 端末で学んだこと的具体例を調べる。	【知識及び技能】 決算整理や株式会社の取引について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができた。 【思考力、判断力、表現力等】 取引を記録することと、取引の意義を考えながら取り組むことができた。 【学びに向かう力、人間性等】 決算整理や株式会社の取引について自ら学び、取引の記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組むことができた。	○	○	○	21
	定期考査			○	○	○	1
	発展編 株式会社の取引 ・純利益の計上と剰余金の配当および処分に関する取引の記帳法を理解させる。 ・法人税・住民税・事業税の記帳法を理解させる。 ・株式会社の財務諸表の作成に習熟させる。	・指導事項 1. 剰余金の配当と処分 2. 株式会社の税金 3. 株式会社の財務諸表  ・教材 プリント 端末で学んだこと的具体例を調べる。	【知識及び技能】 株式会社の取引について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができた。 【思考力、判断力、表現力等】 取引を記録することと、取引の意義を考えながら取り組むことができた。 【学びに向かう力、人間性等】 株式会社の取引について自ら学び、取引の記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組むことができた。	○	○	○	28
定期考査			○	○	○	1	
3 学期	発展編 総合記帳演習 ・総合記帳について自ら学び、取引の記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組ませる。	・指導事項 1. 総合記帳演習Ⅰ 2. 総合記帳演習Ⅱ 3. 総合記帳演習Ⅲ  ・教材 プリント 端末で学んだこと的具体例を調べる。	【知識及び技能】 株式会社の取引について理解するとともに、関連する技術を身に付けることができた。 【思考力、判断力、表現力等】 取引を記録することと、取引の意義を考えながら取り組むことができた。 【学びに向かう力、人間性等】 株式会社の取引について自ら学び、取引の記録の効果的な活用に主体的かつ協働的に取り組むことができた。			○	26
	定期考査			○	○	○	1
							合計
							117

足立高等学校 令和8年度（3学年用） 教科 商業

科目 情報処理

教科：商業

科目：情報処理

単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 C組

教科担当者：

使用教科書：（実教出版 最新 情報処理 Advanced Computing ）

教科 商業 の目標：

【知識及び技能】 商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

科目 情報処理 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
2学年で学んだ情報を扱うことについてさらに発展的に実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けている。	情報を扱うことに関する課題を発見し、様々な処理ができるよう判断し、将来ビジネスに携わる者として創造的に解決しようとしている。	能力の向上を目指して自ら学び、情報を適切に扱うことに主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1学期	ビジネス活動において、情報がどのように分析され、把握されているかを理解する。 社会で利用されている情報システムの例や、ビジネスにおける情報活用の実際を学ぶことにより、コンピュータを利用した情報の処理や活用の重要性を理解する。	1章 情報の収集と分析 1節 ビジネスと統計 2節 関数を利用した表の作成 3節 グラフの作成	【知識・技能】 情報の意義と重要性について考え、説明することができたか。 情報システムの構成や処理方式の概要を理解し、具体的な利用例を説明できたか。 【思考・判断・表現】 日常利用しているさまざまな情報システムに関心を持ち、その意義や役割を考え、理解することができたか。 【学びに向かう力・人間性等】 ビジネスにおける情報の役割を理解し、これを活用するための知識や技術を積極的に身に付けようとする態度を持ったか。			○	10
	定期考査			○	○		1
	エクセルの利用に関する知識と技術を習得させ、ワークシートの構成、構成要素の配置、表作成の要領について理解する。	2章 表計算ソフトウェアの活用 ・エクセルを利用した表作成 ・エクセルの活用方法と技術	【知識・技能】 情報の意義と重要性について考え、説明することができたか。 情報システムの構成や処理方式の概要を理解し、具体的な利用例を説明できたか。 【思考・判断・表現】 日常利用しているさまざまな情報システムに関心を持ち、その意義や役割を考え、理解することができたか。 【学びに向かう力・人間性等】 ビジネスにおける情報の役割を理解し、これを活用するための知識や技術を積極的に身に付けようとする態度を持ったか。			○	12
定期考査			○	○		1	
情報がビジネスの重要な手段として、ビジネスの諸活動の中で果たしている役割や種類について理解する。 エクセルの利用に関する知識と技術を習得させ、ワークシートの構成、構成要素の配置、表作成の要領について理解する。	2章 関数を利用した表の作成 1節 データの入力と計算式の設定 ・基本的な関数	【知識・技能】 情報の意義と重要性について考え、説明することができたか。 情報システムの構成や処理方式の概要を理解し、具体的な利用例を説明できたか。 【思考・判断・表現】 日常利用しているさまざまな情報システムに関心を持ち、その意義や役割を考え、理解することができたか。データを確実に入力できたか。 【学びに向かう力・人間性等】 ビジネスにおける情報の役割を理解し、これを活用するための知識や技術を積極的に身に付けようとする態度を持ったか。友人とともに学ぶ姿勢があったか。			○	15	

2 学期	定期考査			○	○		1
	情報がビジネスの重要な手段として、ビジネスの諸活動の中で果たしている役割や種類について理解する。 エクセルの利用に関する知識と技術を習得させ、ワークシートの構成、構成要素の配置、表作成の要領について理解する。	2章 関数を利用した表の作成 1節 データの入力と計算式の設定 ・基本的な関数 ・応用的な関数 ・グラフの作成	【知識・技能】 情報の意義と重要性について考え、説明することができたか。情報システムの構成や処理方式の概要を理解し、具体的な利用例を説明できたか。 【思考・判断・表現】 日常利用しているさまざまな情報システムに関心を持ち、その意義や役割を考え、理解することができたか。データを確実に入力できたか。 【学びに向かう力・人間性等】 ビジネスにおける情報の役割を理解し、これを活用するための知識や技術を積極的に身に付けようとする態度を持ったか。友人とともに学ぶ姿勢があったか。			○	15
	定期考査			○	○		1
3 学期	情報がビジネスの重要な手段として、ビジネスの諸活動の中で果たしている役割や種類について理解する。 エクセルの利用に関する知識と技術を習得させ、ワークシートの構成、構成要素の配置、表作成の要領について理解する。	2章 関数を利用した表の作成 1節 データの入力と計算式の設定 ・基本的な関数 ・応用的な関数 ・グラフの作成	【知識・技能】 情報の意義と重要性について考え、説明することができたか。 情報システムの構成や処理方式の概要を理解し、具体的な利用例を説明できたか。 【思考・判断・表現】 日常利用しているさまざまな情報システムに関心を持ち、その意義や役割を考え、理解することができたか。正確な処理を迅速にできたか。 【学びに向かう力・人間性等】 ビジネスにおける情報の役割を理解し、これを活用するための知識や技術を積極的に身に付けようとする態度を持ったか。友人とともに学ぶ姿勢があったか。			○	21
	定期考査			○	○		1
							合計
							78

